



マインドフルネス総合研究所のホームページで地方創生 SDGs 官民連携プラットフォームの会員として、パートナーシップのプログラムを公表し推進しています。

<http://mindfulness.jp/sdgs/mokuji-sdgs.htm>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Goal 12. つくる責任 つかう責任

持続可能な生産消費形態を確保する

内面の成長のスキルをすべての人の SDGs の実現のために

マインドフルネス総合研究所で研究開発しているマインドフルネス SIMT(注1)は、広く深い心の観察、感情の反応のしかたのトレーニングを含むので、人が遂行するすべての営みに関係します。特に、17のゴールとの関係を述べます。

Goal 12. つくる責任 つかう責任
持続可能な生産消費形態を確保する

ターゲット

- 12.4 2020 年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。
- 12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
- 12.6 特に大企業や多国籍企業などの企業に対し、持続可能な取り組みを導入し、持続可能性に関する情報を定期報告に盛り込むよう奨励する。
- 12.7 国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達を促進する。
- 12.8 2030 年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。

ターゲット

- 12.b 雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業に対して持続可能な開発をもたらす影響を測定する手法を開発・導入する。

SDGsの専門家は目標12についてこういう。

「目標12は、SDGsの成功の可否を握る目標だと筆者は考えている。目標12が達成できれば、社会構造が持続可能なものになった、といえると考えるからである。それほどまでに、我々が個人として日常的に行う消費行動、そして消費のもととなる生産活動を地球と人間にとって持続可能にしていくことは、重要であると同時に難しいのである。」(A102)

作ること(生産)と、使うこと(消費)は、全く別のもののように思えるが、西田哲学は、矛盾対立するものが同一であるという。確かに、消費がなければ生産が成り立たない。物の場合、時間差があるが、サービスの場合、生産と消費が同時である。

この目標12は、精神的なことは関係なさそうに見えるかもしれないが、内面と大きな関連がある。自分中心の一面だけみることにより、社会全体の利益を害することがある。

「SDGs達成に貢献できる製品・サービスや、新たに生み出すビジネスアイデアほど、マイナスイメージがつかないようにすることが大事になってきます。

いいことをしていると宣伝しているのに、実は隠れて批判されるような事情を抱えていることを「〇〇ウオッシュ」と呼びます。…

環境だけではなく、最近ではSDGsに貢献するといいいながら、可視化に一つのゴールには貢献するかもしれないけれど他のゴールのことを全然考えていない、というようなケースを指して、「SDGsウオッシュ」という言葉も出てきました。…

「いいことをしているはずなのに、陰ではひどいことをしていた」「いいことをしていることに集中しすぎて、負の影響について考えていなかった」というのは、最初から何もいいことをしていないよりも、企業イメージを傷つける可能性があり、注意が必要です。」(B57)

SDGsウオッシュについては、下記が詳しい。

<https://ideasforgood.jp/glossary/sdgs-washing/>

ゴール12を取り組むにあたり、費側の心理を害したサービスをすると、途中で中断もし、次の注文はなくなる可能性がある。消費者から「あれは悪質な企業、団体である」と評価されれば、持続可能ではなくなる可能性がある。

企業、団体による悪質な行為が時々、報道される。悪質なことをするのも、個人である。個人の行為が団体の行為だと評価されるのである。

個人は、自己だけの利益ではなくて、団体の利益、そして消費者、社会の利益との調和をはからなければならない。

団体、企業が、自己の利益だけを優先させて、後に顧客に損害を与えたことが発覚して、企業の信頼を失った事例は多い。

<https://blog.canpan.info/jitou/archive/2424>

★生きがい、自己実現

人はみな、自分の選択したものの実現によって幸福感得るが、他者もそうであることを忘れて、自分だけの利益を優先する私欲、我利を犯しやすい。

<https://blog.canpan.info/jitou/archive/3311>

★プラクシス＝社会創造と同時に自己を成長すべき

自己の私欲、闇の心に気づき、抑制して、消費者の利益を損なうことがないように行動しないと、いつかは、明るみになって、団体、組織の信頼を失墜させる。したがって、生産側である企業、団体のメンバーも、エゴイズムの心理を観察し、抑制すべきという教育を受けたほうがいい。

西田哲学は、そういう社会全体の立場から見る行動指針が「至誠」であるという。

消費側に、エゴイズムもあるだろう。「お客様は神様」というひとがいたが、「生産者こそ神様」だと思ふべきである。自分が生産できない物、サービスを提供してくれる生産側に感謝しなければならない。

それなのに、客が生産者を困らせる「カスタマーハラスメント」がある。

また、優越的地位を悪用して、下請け、関連会社をいじめる組織がある。共に幸福でありたいという共生の理念に違背しているので、意欲を低下させ、後に弱者いじめを指摘されて全体の信頼を失う。

生産側も消費側も団体は、自分の組織も倫理的ガイドラインを作り、内部で徹底すべきだろう。

これは、Goal 4とも関連する。教育のなかに、「〇〇ウオッシュ」を予防すること、さらに広く組織や消費者を傷つける闇の心、逆に生産者に法外の苦情をいい困らせる闇の心に気づく方法に関する教育を含めてはどうだろうか。

ターゲット12. B には、「雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業」とあるが、日本各地に「至誠」で生きようとした古人がいるので、それに関連した観光サービスを提供してほしいと私は願っている。

(編集集中です)

(注1) SIMT は、自己洞察瞑想療法である。Self Insight Meditation Therapy
参照:大田健次郎(2013)『うつ・不安障害を治すマインドフルネス』佼成出版社
大田健次郎(2014)『不安、ストレスが消える心の鍛え方
——マインドフルネス入門』清流出版
ホームページでの紹介:top > マインドフルネス心理療法 SIMT とは

(注2) (Axx)は、蟹江憲史(2020年)『SDGs(持続可能な開発目標)』のページを示す。
(Bxx)は、村上芽・渡辺珠子(2019年)『SDGs入門』のページを示す。